



草津東高等学校図書館
本derful!委員 発行
＜2018. 1. 30＞
1月号 NO. 2
学校ホームページ版

話題の本



置いていほす

<芥川賞>

☆74歳一人暮らしの桃子さんの生き方

『おらおらでひとりいぐも』

若竹千佐子：著 河出書房新社

☆インドで百年に一度の大洪水に遭った
日本人女性の話

『百年泥』

石井遊佳：著
新潮社



<直木賞>

☆宮沢賢治の生涯を
父視点で描く

『銀河鉄道の父』

門井慶喜：著

講談社

<ドラマ原作コミック>

☆自分に自信がなく、オタク道まっしぐらのクラゲ大好き女子・月海（つきみ）の人生は、おしゃれ女装男子・蔵之介に出会ったことで変わり始める『海月姫』 東村アキコ：著 講談社

<2018年本屋大賞ノミネート10作品>

- ①引退したい殺し屋が意外な人物に襲撃される『AX』（伊坂幸太郎：著）/②不登校の少女が鏡の向こうの世界で出会ったのは…『かがみの孤城』（辻村深月：著）/③ツバキ文具店には今日も伝えたい思い、言葉が舞い込む『キラキラ共和国』（小川糸：著）/④自分が愛した女性は実在したのか、それとも幻か？『崩れる脳を抱きしめて』（知念実希人：著）/⑤映画研究会の夏合宿で起きる殺人事件『屍人荘の殺人』（今村昌弘：著）/⑥出版社の雑誌編集長が雑誌の廃刊を仄めかされて…『騙し絵の牙』（塩田武士：著）/⑦19世紀のパリで日本人画商とゴッホ兄弟が出会い…『たゆたえども沈まず』（原田マハ：著）/⑧山中で発見された白骨死体の手掛かりは、将棋の駒『盤上の向日葵』（柚木裕子：著）/⑨閉店を噂される百貨店で売り場に立ち続ける従業員と「白い猫」の物語『百貨の魔法』（村山早紀：著）/⑩病弱な主人公・ちひろを救いたがために両親は宗教にのめり込み、やがて家族が崩壊していく『星の子』今村夏子：著

*掲載は書名の五十音順。本屋大賞の発表は4月です。

『ミカグラ学園組曲』

Last Note：著

KADOKAWA（MF文庫）

<あらすじ>

私立御神楽学園に入学した一宮エルナは従兄の二宮シグレと再会し、多くの仲間と学園生活を楽しむが、御神楽学園は他の学校と違い、その人の潜在能力が実体化する不思議な学園だった。学園は全てが文化部で構成されており、人々の能力も多種多様。エルナは生徒会長の御神楽と出会い、大きく成長する。

<おすすめポイント>

学園の寮生活が描かれた日常的な会話もとても面白いですが、何より能力をぶつけ合って闘う戦闘シーンが一番面白いです。互いに思考を練り上げた作戦の闘いは魂と魂のぶつかり合いが起こっているようで、ここが一番集中して読めると思います。

本derful!委員のおすすめ本

「あなたの夢はなんですか？私の夢は大人になるまで生きることです。」

池間哲郎：著 至知出版社

<内容>

1989年頃から、主にアジアの貧困地域などを訪ねて子どもたちを支援する活動をしている著者が、どんなに貧しくても生きようとするたくましい子どもたちに出会っていく物語。

<おすすめポイント>

普段は漫画しか借りない私は文章ばかりの本に少し抵抗があったのですが、この本は気がついたら1冊を読み終えていました。今、私たちには帰る場所があり、帰りを待っている人がいる。そんな当たり前だと思っていることに感謝したくなる1冊だと思います。ぜひもっとたくさんの人に読んでほしいです！！

『世界からボクが消えたなら』

涌井学：著 小学館（小学館文庫）

<あらすじ>

主人公は余命わずかと宣告され、自分と同じ姿をした悪魔と寿命を延ばす取引をする。その取引とは、“世界からモノを一つ消すとそのかわりに命を一日分だけ延ばす”というものだった。

<おすすめポイント>

この本は『世界から猫が消えたなら』という本の内容を主人公視点ではなく、主人公の飼い猫であるキャベツ視点で描かれたもので少し変わった視点から読むことができます。『世界から猫が消えたなら』は映画もあって、私は本を読みながら映画の場面を想像していました。とても感動する話です。ぜひ読んでみてください。

『記憶屋』

織守きょうや：著 KADOKAWA
（角川ホラー文庫）

<あらすじ>

夕暮れ時、公園の緑色のベンチに座っていると現れ、忘れた記憶を消してくれるという怪人、「記憶屋」。大学生の遼一は、それは都市伝説だと思っていた。しかし想いを寄せていた先輩・杏子が「記憶屋」を探しに行き、遼一のことを忘れ去ってしまう。そして他にも周囲で不自然に記憶を無くした人物を知る。それから遼一は真相を探り始めた。

<おすすめポイント>

私は忘れた記憶というものは誰にでもあると思います。けど、その忘れた記憶を本当に忘れてしまっているのか、疑問に思います。もしかしたら、その嫌な記憶も良い思い出に変わったりするかもしれないからです。自分たちの「記憶」について深く考えることができました。

ほんだふる

本derful！通信

2月の「本derful！
講演会」案内

今年度の本derful！講演会（2月22日）には、ノンフィクション作家の小松成美さんに来ていただき、著書『対話力 私はなぜそう問いかけたのか』（筑摩書房 *以下『対話力』と略す）の内容を中心に話していただきます。

小松さんはスポーツ選手や文化人、経営者など、各分野の第一線で活躍する方々へのインタビュー記事を得意とされ、昨年は『虹色のチョーク』という著書で注目を集めてテレビ出演もされていました。

今や小松さん自身が著名な作家ですが、『対話力』の最初の章では、インタビューがうまくいかなかったエピソードも書かれています。

小松さんはどうやってインタビュー相手の心を開いていくのでしょうか。そしてどのように文章にしていくのでしょうか。また、出会ってきた方々とのエピソードなど、仕事を通して知られた大切な事をお話しいただく予定です。

本校図書館の入り口周辺に小松さんの著書を集めていますので、ぜひ手に取ってみてください。『対話力』も置いてありますので、読書の時間中に読めなかった人は続きを読んでくださいね。

図書館にある小松成美さん著書より

「虹色のチョーク」

働く幸せを実現した町工場の奇跡（幻冬舎）

従業員の7割が知的障がいを持つチョーク工場、日本理化学工業。個々の従業員の特性を生かし、誰もが幸せに働ける工場経営とは。

「それってキセキ GReeeeNの物語」

(KADOKAWA)

福島で結成した人気ボーカルグループであり本業の歯医者業のため顔も名前も明かしていないGReeeeN。著者は1回目の打ち合わせで、本の出版が彼らの意思ではないことを知る。自分たちのドキュメンタリーは必要ないと感じている彼らに、著者は内心慌てながら小説として出すことを提案し、出来上がったのが本書である（「あとがき」参照）。4年の取材を経て生まれた、GReeeeNのこれまでを描く青春小説。

「なぜあの時あきらめなかったのか」

(PHP研究所)

第一線で戦うアスリートたち。あきらめそうな心とどのように向き合い、前進していくのか、その葛藤を記す。27人のアスリート達へのインタビュー。オリンピック選手に取材した『トップアスリート』（扶桑社）もおすすめ。

「中田英寿 誇り」

(幻冬舎)

プロとして戦う最後のゲームを終え、荒れ狂う感情。そしてサッカーへの溢れる思い。世界を巡った孤高のサッカープレイヤーの体験と本心が明かされた1冊。

「熱狂宣言」

(幻冬舎)

外食業界で活躍するダイヤモンドダイニング社長・松村氏は、進行する若年性パーキンソン病とひそかに闘いながら、自分を鼓舞し、経営にエネルギーを注ぐ。苦闘の日々を綴るドキュメント。



草津東高等学校読書活動推進事業「本derful！」

～10分間読書、一斉読書、課題読書、本derful！講演会など
読書を通じ、可能性を広げます～

2学期課題図書

『一流の集中力』（豊田一成：著 ソフトバンククリエイティブ）

～1年生、2年生の読書感想より～

- この本を読んでノートをつけるようになりました。
- （待っている時間の）休み方によってリスタート後の集中力は違い、休んでいる間にも結果を残すための努力はあるということをこの本から学ぶことができました。
- 私にとってスポーツは無縁なもので最初はピンとこなかったがだんだん引き込まれていった。最初に書いてあった一流アスリートの条件「数々の困難が重なった中で最高のパフォーマンスを見せる」はとても心に響いた。
- スポーツをしている人だけでなく、教育やビジネスにも活かせると感じた。
- 勉強にもあてはまると思うので自分の行きたい大学に入学するために目標をたて、緊張していても自分の力を発揮できる本番に強いメンタルにしたい。
- 「今までの自分を認め今の自分の目標に向かうことがカッコイイ自分に近づく道だ」という文を読んで、自分を愛することに対して前向きな気持ちになりました。
- この本に書いてあった「もう一人の自分をつくる」ことをこれからしていこうと思います。
- この本に、大いに驚かされました。日ごろから「メンタル」という言葉をよく耳にしていましたが、こんなに深く、おもしろいものだとは思っていませんでした。
- もともと緊張しやすく、緊張するとあまり良いプレーができませんでした。しかしこの本から「成功」するためのたくさんのヒントをもらい、実際に色々なことを試合で試しました。
- 大物になる選手はちゃんと自分のことを理解していて、自分に何が足りていないのかをしっかりと考えてトレーニングしているのですすごいと思ったし、僕らぐらいの年から自己分析していて、自分もあなりたいと思いました。
- この本の「内言」をやった時、上手くいったことがありました。実はその時、「内言」という言葉も意味も知らなくて、この本を読んで初めて知りました。でもそれを自分がやっていたということに驚きました。他にも集中力の極意が書かれていたので、それを実践していきたいと思います。
- 自分の夢、将来にとってためになることがたくさん書かれていました。例えばメンタルトレーニング。まずは自ら実践してみて伝えていけばいいなと思いました。
- 第一志望の大学に本当に合格したいのなら、その先の熟達目標を掲げなければいけないと気付かされた。自分も丸山選手のように目標設定を改善し、大学合格は一つの通過点と考えて少しでも緊張を和らげるようにしたい。
- 大事な大会でミスしたりすることが多いです。そんな自分を直したいとずっと思っていたのですが直し方も知らず途方に暮れていました。その時に配られたのがこの本で、総体前で焦る私にぴったりの本でした。今後の部活に活かせる言葉がたくさんあって読んでいて力になりました。
- （この本の内容を）試合で実践してみました。すると、緊張が嘘のように消え、視野が広がったように感じました。やっと自分なりの緊張を払拭する方法が見つけ出せました。